



TITLE:

東印度農林業の性格

AUTHOR(S):

目崎, 憲司

CITATION:

目崎, 憲司. 東印度農林業の性格. 東亞經濟論叢 1942, 2(3): 557-588

ISSUE DATE:

1942-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/128716>

RIGHT:

所究研濟經亞東

學大部國帝都京
內部學濟經

年四回(二月、五月、
九月、十二月)發行

叢論濟經亞東

號參第 卷貳第

月九年七十和昭

東印度農林業の性格……………	經濟學博士 目崎憲司
佛印に於ける協同組合について……………	經濟學博士 松岡孝兒
北支の小作制度……………	經濟學博士 八木芳之助
江北の鹽墾公司考……………	經濟學士 天野元之助
清代貨幣考……………	經濟學士 穗積文雄
支那航域に於ける日英船……………	經濟學士 佐波宣平
支那女子紡績労働者創出過程の特質……………	經濟學士 岡部利良
南方物價對策の諸問題……………	經濟學博士 谷口吉彦
附錄 南方文獻目錄……………	

(禁轉載)

賣發閣斐有肆書

東印度農林業の性格

目 崎 憲 司

目次 は し が き

第三章 農林業の構成及び特質

第一章 序 論

第二章 農林産物の概観

第一節 農林業の構成

第二節 農林業の特質

は し が き

この小論文は舊名蘭領印度の農林業を叙述したのであるが、記述の便宜上蘭領印度といふ名前を踏襲した。この點讀者各位の御諒承を乞ふ。

第一章 序 論

光と熱及び濕度に恵まれたる蘭印は農林業を生命とするのである。農林業あるが爲めに蘭印住民の生存が確保され、又蘭印及び和蘭本國の繁榮を齎らしたと謂ふべきであらう。

然しながら、農林業の蘭印に對する重要性は住民の立場と和蘭人及び和蘭本國の立場とに依つて必ずしも同一でない。本來的に謂はゞ、個別經濟の發展はそれと繋りをなす他の個別經濟の發展を齎らすのであり、又かくして個別經濟の綜合である國民經濟の發展が招來し得られるのであるから、住民が經營する農林業の發展は和蘭人

東印度農林業の性格

第二卷 五五七 第三號

一

及び和蘭本國の歡迎する所でないならばならない理である。然るに蘭印の農林業に付いては、住民と和蘭人及び和蘭本國との對立關係が生じたのであり、蘭印農林業に關し先づ第一の問題を提示するのである。

右の問題に關し結論より謂はゞ所詮和蘭及び和蘭人の搾取主義に歸一するであらう。而して歐米諸國の植民政策が一樣に搾取主義に終始してゐる以上、蘭印に於ける和蘭の農林業政策が他の歐米諸國の植民政策と軌を一にしても不思議ではなく、從つて又右の如き問題の提示自體も無意味である感がないではない。然しながら結論としては蘭印に於ける和蘭の農林業政策が他の歐米諸國の植民政策と同一の指導精神に基くとしても、それは結論であつて、かゝる結論附けをなす道程は吟味の要があり、又或は蘭印に於ける和蘭の農林業政策と他の歐米諸國の植民政策との間に指導精神乃至はその具體策に於て多少の相違があるを發見しないとも限らないと思ふ。

蘭印の住民インドネシヤは樂天主義であり、生活を維持し得れば満足するのである。その半面智能は低く、向上心が乏しく、個別經濟に付いても發展を起動する積極性が薄い。

如此きインドネシヤの性格は先天的なるものもあるであらう。或は又資源に恵まれ衣食住を得るに要する犠牲が少いこと、並びに高温高濕強光の影響にも基くであらう。或は又歐米先進國若しくはその國民の壓迫乃至搾取主義にも因ることが少くないと思ふ。インドネシヤの性格に關する檢討は本論の範疇外に屬するのであるから、これ以上の言及を避け、たゞ以上に掲げたる性格を前提として蘭印農林業の特質を吟味したい。

蘭印に於て資源が豊富であり、生活に要する犠牲が少いこと、而して又住民の智能が低く向上心が乏しいことは、住民經營の農林業の發展を規制する一の要因となつた。要言すれば、住民は生活が出來ればそれで満足し、

その限度に於て農林業を經營するのである。従つて彼等の農林業は生活に直接關係ある種類に限定され、特に米作を重んじたのである。ムルタテュリ Multatuli——本名デッケル Eduard Douwes Dekker——の言を藉れば、「爪哇人は本質的に農夫である。彼等の生れた土地からは僅かの勞働に對して多くが酬ひられるので、彼等は勢ひ農業に心をそゝられる。特に彼等はその最も熟練した水田の耕作には身も魂も打込んで熱心になる。爪哇人は水田の眞中で成長する。彼等は少年時代からもう父と一緒に田畑へ行つて犁や鋤を持ち父を助けて堰に畑に灌漑用水に働くのである。彼等は收穫によつて自分の年齢を算へ、水田の稻莖の色から季節を計る。彼等は自分と共に米を刈つてゐる仲間の者と一緒にゐる時に我家にゐるやうな落着を感じる。彼等は米を扱から離すため樂し氣に歌を唱ひ乍ら、夜なく米を掲げてゐる村の少女の中から妻を見つける。彼等の犁を引いてくれる二三匹の水牛を所有することが、彼等にとつては微笑ましき理想である。……つまり爪哇人にとつては、米を作ることは、ライン地方及佛蘭西南部に於ける葡萄栽培の如きものである。」¹⁾

如此くしてインドネシヤは本來的には原始的農林業を經營するのであり、家長經濟或は又或る意味に於ける村落經濟を構成するのである。然るに歐洲人、後には又米國人が渡來し、特に和蘭が東印度諸島を支配するや、彼等は自國又は白國人の利益の爲めに農林業の發展を指向したのである。再びムルタテュリに謂はしむれば、「然るに、其處へ外國人が西洋からやつて來て、その國の主人となつて了つたのである。そして彼等はその豐饒な土地から利益を得ようと望んだ。又、歐羅巴の市場により多くの利益を投ずる生産物の爲にその努力と時間とを捧げることその住民に命じたのである。」²⁾

- 1) Multatuli, Max Havelaar, 朝倉純孝譯, マックス・ハーフェラール, 九七頁。
- 2) 上掲, マックス・ハーフェラール, 九七・九八頁。

歐米人の農林業經營又殊に和蘭の農林業政策は自國又は自國民の利益を目的とするのであり、従つて住民の本來的經營をその儘に存續することを許さない。詳言すれば、彼等は蘭印に於て世界的需要の大なる農林産物を栽培せしめ、その農業利潤と商業利潤を追及しようとするのであり、住民經營の農林業はこの目的に反せざる限りに於て認められると謂ふに過ぎないのである。

この結果又はこれに關聯し、蘭印の農林業は三つの點に於て性格に變化を受けたのである。その一は蘭印に元來固有しない農林産物の栽培であり、その二は歐米式大規模經營の農林業、所謂農園の發展であり、第三は蘭印農林業の世界市場依存性の生成である。

後述するが如く、蘭印に於ては今日多種多様の農林産物を産するのであるが、その中、蘭印に固有するものは極めて少いのであり、大部分の品種は外國より輸入栽培したのである。今蘭印農林産物の原産地を見るに、左表の通りであり、蘭印を原産地とする農林産物中特に重要なものは米と胡椒に過ぎない。

蘭印に固有せざる農林産物の栽培は自然の儘ではその發展を望み難い。従つてこれを促進する爲めには、自由主義經濟の下に栽培者たる住民の收入を増加するか、若しくは統制主義經濟の下に住民に栽培を強制するか、或は又自由主義、統制主義の別を問はず、歐米人企業を奨励するか、何れかに依らねばならないであらう。而して自由主義經濟の下に於て、輸入種農林産物の栽培に關し、住民の收入を確保する方策は少くとも最初の間は失敗であつた。何故ならば、住民は收入よりも寧ろ感情的に固有の農林業に執着を有つのみならず、農林業の利潤は結局に於て少數の農林産物問屋に吸収されてしまつたのである。¹⁾又歐米人企業は十九世紀の前半期に於ては政治的

1) De K. Angelino, Colonial Policy, II, P. 43.

蘭印主要農林産物の原産地¹⁾

品 名	原 産 地
カボック	熱帯アメリカ
カッサヴァ	南 米
甘 藷	〃
馬 鈴 薯	〃
落 花 生	〃
大 豆	南支那及び交趾支那
煙 草	ア メ リ カ
ヘヴィアゴム	南 米
コ ー ヒ ー	エチオピア南部
茶(アッサム種)	印度アッサム州
キ ナ	南米ペルー及びエクアドルのアンデス山中
コ コ ア	南米オリノコ河
油 椰 子	アフリカ赤道地帯
甘 蔗	印度ガンジス河口
玉 蜀 黍	南部メキシコ
コ ー 椰 子	南米西海岸の北方地域
コ カ	ペ ル ー
米	蘭 印
ガタパーチャ	〃
肉 荳 蔻	〃
胡 椒	〃
分 シ ビ ル	〃

1) 大谷光瑞：蘭領東印度地誌，グレッツァー，敦仁郷繁譯：蘭印の農業經濟，淺香永起：南洋經濟研究より作成。

理由に基き蘭印政府が歡迎しないのみか、寧ろ拒否する政策を採用したのである。従つて輸入種農林産物の栽培は主として強制裁培に依つて行はるゝ外途はなかつたのだ。

蘭印に於ける強制裁培は通常一般的強制労働の範疇内に取扱はれるのであるが、一般的強制労働は道路、橋梁等主として土木工事に適用される夫役であり、又一種の租税と解してもよいのであるに對し、強制裁培はコーヒー等に付いて住民に栽培を強制し、生産物は政府の定むる價格にて供出せしむると共に、その一部をレヘント等住民官吏の所得として徴收するのである。従つて或は一般的強制労働に對し特殊的強制労働と稱してもよいであ

らう。強制栽培は十九世紀の半ば過ぎ迄ジャバ、スマトラの西海岸及びメナド附近に行はれたのであるが、その最好例はコーヒーに付いて行はれたるプリアングル・システム Preanger System である。^{*}

* アンジェリノ Angelino に依れば、強制栽培に係る耕地面積は案外少く、強制栽培の最も盛なりし一八四〇—一八五〇年に於ては僅か〇・五%であり、一八五五年には三・二%に低下したと。²⁾

歐米式大規模農林業の發展及び蘭印農林業の世界市場依存性は或る程度相關關係に立つ。歐米諸國が大規模の農林業經營をなせる結果として、歐米人が蘭印に渡來するにつれ此處にも西洋式の農林業經營を行ふは當然であるが、大規模經營は大量生産を伴ふを以つて、大市場の存在に條件付けられる。換言すれば、若し蘭印のみを市場とするときは、大規模經營の農林業は生成發展の餘地が甚だ少いと謂ひ得るであらう。而して歐米人又特に和蘭が世界市場を對象として蘭印の農林業發展を指向せる以上、蘭印に於ける農林業の大規模經營は發展の素地を賦與せられるのである。

國際市場への依存性は世界の景氣變動に影響されることを豫期せねばならないと共に、世界的不況を克服し、又はこれに堪ゆる方策を用意せねばならない。その方策に關し蘭印が參畫せるものに二つある。その一は世界的不況を解消せんとするものであり、主要農林產物に付いて國際カルテルを結成し、その價格を維持せんとするのである。その二は農林業に關し多角經營をなし、或る種の農林產物の不況を他種の農林產物の好況に依つてカバーせんとするのである。

世界的不況と謂つても、その種類強度は多岐多様である。或は個別の商品に關するものがあり、或は個別的產

- 1) Preanger System に付いては De K. Angelino, Colonial Policy, II, pp. 18, 19 を參照せられよ。
- 2) 上掲, Colonial Policy, II, p. 44.

業部門に關するものがあり、更に又全産業部門に通じて起るものがある。又その強度が一様でないことは敢て謂ふを俟たないであらう。従つて世界的不況對策と謂つても、不況の種類強度に應じそれぞれ考究せねばならないのは勿論である。但し全産業に亘る強度の世界的不況に付いては如何なる對策も効果が甚だ少く、従つてかゝる世界的不況の一環をなす農林業の不況に付いては、前述したるが如き蘭印の對策の効果にも多くの期待をかけ得ないであらう。又農林業のみに存する不況であつても、蘭印の對策たる國際カルテル又は多角經營は要するに個別商品の對策であり、農林業全般の不況に關しては對策の對象が別個の範疇に屬するのであるから、効果は薄いであらう。かくして蘭印が採用したる農林業の不況對策は所詮個別商品の不況に對してのみ望みを囑することが出來ると思ふ。

上來敘述したるが如き蘭印農林業の性格の變化が或る程度在來の住民經營を止揚せしめたるは敢て謂ふ迄もない。然しながら住民の農林業がこれに因つて全面的には揚棄されないのは勿論であつて、歴史と習慣を一朝にして抹消し去ることは不可能である。更に又半面より謂ふに、和蘭の東印度統治の點より見るも、在來の住民農林業を廢滅せしむることは得策でない。西洋式農林業經營は資本主義に立脚するのであり、企業家の利潤追求を目的とするのであるから、住民の利益は勞力の再生産に限定して考慮されるに過ぎず、又總じて謂はゞ、住民の安居樂土と言ふ點も閑却され勝ちである。然るに和蘭は住民の文化向上こそ企圖せず、又希望すらしなかつたのであるが、住民の懷柔には可成りの苦心を拂つてゐたのであり、これが爲めに住民の習慣尊重をモットーとしたのだ。和蘭の植民政策の成功が謳はれたのも實はこの點に歸着すると思ふ。従つて和蘭の住民統治の必要より謂つ

て、住民農林業の保存は要請せられるのである。

更に又住民農林業の發展は農林業經營の觀點よりも肯定せられる。高度資本主義の發展に従ひ多くの國に於ては農林業も資本主義化する傾向を有つのであるが、農林業は工礦業に比して技術の進歩も顯著ではなく、機械化の程度も低いのであり、殊に勞働費の低廉なる所に於ては資本主義農林業の發展は比較的遅々たる理由を有つのである。而して蘭印は正にその好例と謂ふべきであらう。

蘭印に於て住民農林業の發展が是認められる經濟上の根據は、第一には勞働費の低廉なるに存するのであり、家長經濟の性質上賃銀として支出せられるものが少く、又賃銀が支拂はれてもそれは比較的低廉である。この外土地に要する資本の少額なることも銘記せねばならない一の事由であり、蘭印の住民は父祖傳來農林耕地を占有し、土地に付いて創設資本も設備資本も殆んど要しない。かくして住民農林業は生産費が低廉となり、資本及び技術の點に於て又經營規模の點に於て歐米人農林業に劣つてゐても、尙且つこれに對し競争力を有つのである。加之、不況が襲來するも歐米人農園の如く巨額なる固定資本の爲めに累はされることなく、事業の縮小も比較的容易であつて、もともと素朴ながらやり來つた多角經營を巧に活用し不況に即應して事業の轉換を行ふことが自由であるのだ。

かくして蘭印の住民農林業は生成發展し、その半面に於て歐米人農林業に對し強力なる競争者となる。この點は歐米人農林業が發展するに従ひ愈々深く認識され來つたのであるが、恐らくは歐米企業家の當初豫想しなかつた所でもあらう。又それと共に住民農林業の生成發展力が、如何に根強いものなるかを裏付けるのではあるまい。

か。

蘭印に於ける住民農林業の生成發展の程度従つて、又歐米農林業との競争性は農林産物の品種に依つて異なるは勿論である。而して蘭印の農林業は多くの場合農林産物工業と一體をなせる關係上、農林産物工業に於ける技術が高度化するもの程住民經營は歐米人農園に對し競争性が薄いと謂つてよい。その點は兎も角として、かゝる競争は競争の儘に存續するや、歐米企業家の中には住民農林業の生成發展を利用するものがある。製茶業が茶葉を住民の供給に仰ぎ、ゴム製造業者が住民の濡れゴム又は生ゴムを購入するが如きはその主要なる例であらう。かゝる場合、歐米農林業と住民農林業との間に於て或る程度の提携が行はれることとなる。何故ならば、製茶業者もゴム製造業者も自らの經營又は統制下に於て茶又はゴムの農園を有つことが多く、住民經營と農園經營の農林産物を包括的に原料として附屬工場を經營するからである。

然しながら、蘭印農林業に關し歐米人經營と住民經營との提携は更に他の意味に於て他の部面に於て展開されつゝあるのではあるまいか。その一は經營の分野である。農園經營と住民經營とは農林産物の種類に應じて長所と短所とを異にするのであり、従つて個別經濟上よりも國民經濟上よりも兩者に適格の分野を定むることが得策であるのだ。従つて例へば油椰子は農園經營に、ココ椰子は住民經營に委す傾向が生じてゐる。又米も住民經營を可とするやうである。而して如此き分野の決定は國際情勢の變化と共に層一層重要視せられたものではあるまいか。蘭印は和蘭の植民地であるとは謂へ、國際情勢の惡化に従ひ、經濟上の獨立地域として國民經濟を機構附けることの必要が痛感され、従つて住民の生活安固は漸次重要視され、この點より住民の生活に關係ある農林産物

は住民經營に委すべしとの主張が成立する譯であり、又それと共にかゝる分野の確立はそれだけ蘭印の農林業の發展、從つて又農園の繁榮に役立つと思ふ。尙又かゝる點より謂はゞ、國際情勢の變化は蘭印農林業の性格に付き再度の變化を齎らしたと謂ふべきであらう。

第二章 農林產物の概観

蘭印の農林產物は多種多様であり、又その產額も甚だ大であり、蘭印の生産物中第一位を占む。

農林產物の種類はゴム、砂糖、茶、コーヒ、ココア、煙草、コブラ、椰子油（パームオイル）、米、玉蜀黍、トピオカ、胡椒、キナ、カボック、サイザル、麻、チーク等々牧學に暇なく、熱帯亞熱帯の農林產物は殆んどその全種類を産するのである。更に又農林產物はその用途より見れば、食料品及び工業用原料がある。

農林產物の種類が如此く大なるは、蘭印が熱帯に位置してゐるに因つて、熱帯植物の多様性を表現したのであり、又面積が甚だ廣大であり、大體に於ては海洋に近きも、雨量、季節風の影響を受くる程度が異なるに基くのではあるが、他方に於て、各地域特にジャバ、スマトラ、ニューギニアには高峻なる中央山脈が貫通し、低地と高地の双方に於て可能耕地が存するのであるから、地方に依つて溫度を異にし、從つて種類の異なる農林產物を栽培し得るのである。現に海面以下の低地より千米以上の高地に至る迄各種の農林植物を植栽してゐる。

如此く蘭印は平面的及び立體的に地勢を異にし、かゝる自然的條件の多様性が農林產物の多様性を齎らしたのであるが、その外前述の如く蘭印政府が蘭印に固有しない各種の農林植物を外國より輸入し、その栽培を奨励し

たすることも亦農林産物の多様性を發展せしめたる有力なる素因であらう。

農林産物の生産額が大なることは、高温、高濕、熾烈なる光線、季節風の影響、地味の良好等に基くのであり、又河川の多いことは灌漑に便益を與ふるのであるが、蘭印政府の農林業助成策が寄與することも大である。これ等の點は既に一言したのであり、又今更詳説を要しないと思ふ。

蘭印農林産物の多くは輸出するのであり、この輸出に依つて蘭印及び和蘭經濟の發展を齎したのであるが、その半面蘭印經濟の世界經濟に對する依存性が強大であることを物語るのである。

次表は蘭印主要農林産物の生産額と輸出高を示したのである。この兩者に付いて農園經營と住民經營とを區別したるは、前述したるが如く蘭印農林業に於ては、農園經營と住民經營との兩者があり、兩者の競争が蘭印農林業

蘭印主要農林産物輸出高の世界輸出高に對する比率¹⁾

(%)

種 別	キ* ナ	カボ ツカ	胡椒	ココ ナツ 子物	硬 質 纖維	茶	砂* 糖	油 椰 子物	コ ー ヒ ー	コ コ ア
一九三〇年	93	79	75	29	27	29	18	11	7	4
一九三七 年	82	70	79	38	29	25	17	5	19	7
一九三八 年	90	63	85	33	29	27	17	5	24	4
一九三九年*	×	×	86	37	27	33	19	6	24	×

* 生産高に於ける比率 ** 暫定数字 × 不明 1) Indisch Verlag, 1940, blz. 276 より作成。

に付き重大なる關係を有つが爲めに外ならぬ。尙附表「蘭印主要農林產物輸出高の世界輸出高に對する比率」は蘭印農林業の世界的地位を説明する一の資料となるであらう。

第三章 農林業の構成及び特質

第一節 農林業の構成

蘭印に於て農林業人口は全有業者中如何なる割合を占むるか。一九三〇年國勢調査報告に依れば、全有業者二〇、八七一、〇五〇人中、農林業に従事するものは一三、四五〇、二五六人、全有業者に對する割合は六四・四四%であり、この内ジャバ、マドゥラは八、八九三、六一三人、外領四、五五六、六四三人であり、兩者の比率は前者が六六・一二%、後者は三三・八八%を占む。

農林業の構成、特に農園經營と住民經營との關係並びに各種農林產物の相關關係を從業者數に依つて把握したのであるが、正確なる資料がない。而して前掲の各種農林產物の生産又は輸出高（表「蘭印主要農林產物生産高表」）「蘭印主要農林產物輸出高表」もこれ等の構成關係を指示するのではあるが、更に耕地面積に依つて蘭印農林業の構成を明にしよう。

（一）農園經營と住民經營の耕地面積 左表「農園の數並びに耕地面積」及び「住民經營の耕地面積」は農園經營と住民經營との相關關係を不完全ではあるが或る程度示することが出来るであらう。表「農園の數並びに耕地面積」は農園の法律上の性質を基準として農園數と耕地面積を計上したのであるが、これに依れば、一九三九

年農園数は二、四〇〇、總面積二、四九三、九二八ヘクタール、植付面積一、二〇四、二三五ヘクタールである。又表「住民經營の耕地面積」に依れば、一九三九年に於ける住民經營の耕地面積は八、四二八、六四二ヘクタールで

住民經營の耕地面積¹⁾

(單位 ヘクタール)

地 方 別	年 次	水 田		乾 田*		合 計		全面積に 對する 割合(%)
		總面積	一人當り ^{**} 面積	總面積	一人當り ^{**} 面積	總面積	一人當り ^{**} 面積	
ジャバ及びマドゥラ	一九三〇年	3,274,439	0.08	4,371,817	0.11	7,646,256	0.19	57.8
	一九三七年	3,362,426	0.08	4,487,129	0.11	7,849,555	0.19	59.4
	一九三八年	3,367,879	0.08	4,502,872	0.11	7,870,751	0.19	59.5
	一九三九年	3,377,294	0.08	4,522,621	0.11	7,899,915	0.19	59.8
バリ及びロンボク ^{***}	一九三〇年	×	×	×	×	×	×	×
	一九三七年	186,226	0.10	339,229	0.19	525,455	0.29	51.1
	一九三八年	186,230	0.10	368,170	0.21	554,400	0.31	53.9
	一九三九年	187,778	0.10	340,949	0.19	528,727	0.29	51.4
合 計	一九三〇年	×	×	×	×	×	×	×
	一九三七年	3,548,652	0.08	4,826,358	0.11	8,375,010	0.19	58.8
	一九三八年	3,554,109	0.08	4,871,042	0.11	8,425,151	0.19	59.1
	一九三九年	3,565,072	0.08	4,863,570	0.11	8,428,642	0.19	59.2

* 非灌漑用地、家圃、淡水養魚池、棕櫚林、鹽水養魚池及び南バンタム州に於ける燒畑地はこの數字中に含まれない。

** 一九三〇年度の住民人口に依つて算出。

*** 東部ロンボクに於ては一九三四年一月から農業統計が作成されてゐる。従つてバリ及びロンボクに付いては一九三四年から完全なる數字を利用し得ることゝなつた。

× 不明。

1) Indisch Verslag, 1940, blz. 260 より作成。

あるが、この内には外領はバリ及びロンボクの耕地を含むに止まり、スマトラ、ボルネオ、セレベス等外領の大部分は包攝されてゐない。この故にジャバ、マドゥラに付いてのみ農園經營と住民經營とを比較するに、前者は一一・九五%、後者は八八・〇五%を占め、後者の方が遙かに大である。

(二) 各種農林産物の耕地面積 左表「農林産物別農園の數並びに耕地面積」は蘭印主要農林産物の農園數及び耕地面積を示す。これに依れば、一九三九年の植付面積の大きさはゴム、茶、油椰子、コーヒー、砂糖、ココ椰子、煙草の順序となるのであるが、ゴムの植付面積は、他の農林産物より斷然大であり、全農園植付面積の五一・九四%を占む。

農林産物別農園の數並びに耕地面積*

(單位 ヘクタール)

種別	年次	農園數		耕地面積			生産面積		
		ジャバ及びマドゥラ	外領	合計	植付面積	合計	ジャバ及びマドゥラ	外領	合計
砂	一九三〇年	195	—	158,007	—	198,007	—	—	198,007
	一九三七年	98	—	84,494	—	84,494	—	—	84,494
	一九三八年	97	—	84,829	—	84,829	—	—	84,829
	一九三九年	102	—	94,947	—	94,947	—	—	94,947
糖	一九三〇年	558	554	1,112	344,091	573,014	155,754	213,496	369,250
	一九三七年	604	593	1,197	386,435	593,736	195,556	339,015	534,571
	一九三八年	609	593	1,202	363,860	595,771	193,621	335,792	529,413
	一九三九年	611	588	1,199	380,267	615,627	189,406	331,560	520,966

ガ タ パ ー チ ヤ	一九三〇年	1	2	3	1,135	165	1,300	1,135	—	1,135
	一九三七年	1	2	3	1,139	166	1,305	1,139	161	1,300
	一九三八年	1	2	3	1,139	166	1,305	1,139	166	1,305
	一九三九年	1	2	3	1,161	171	1,332	1,161	171	1,332
フ イ カ ス	一九三〇年**	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	一九三七年	48	17	65	2,597	1,213	3,805	2,592	1,213	3,805
	一九三八年	53	17	70	2,679	1,045	3,724	2,679	1,045	3,724
	一九三九年	53	15	68	2,586	851	3,437	2,586	851	3,437
コ ー ビ ー	一九三〇年	301	130	431	97,110	33,227	130,337	80,975	19,554	100,529
	一九三七年	325	92	417	90,277	16,894	107,171	84,017	14,735	98,752
	一九三八年	314	87	401	88,585	15,036	103,621	82,946	13,164	96,110
	一九三九年	294	83	377	85,550	13,617	99,167	79,599	11,866	91,465
茶	一九三〇年	280	43	323	98,589	28,407	126,996	85,777	18,275	104,052
	一九三七年	297	38	335	104,829	34,205	139,034	102,843	33,687	136,530
	一九三八年	297	40	337	105,054	33,265	138,319	103,826	33,139	136,965
	一九三九年	299	38	337	105,162	33,226	138,388	103,909	33,028	136,937
煙 草	一九三〇年	45	72	117	32,491	20,208	52,699	32,491	20,208	52,699
	一九三七年	36	47	83	29,367	13,013	42,380	29,367	13,013	42,380
	一九三八年	40	47	87	28,809	13,228	42,037	28,809	13,228	42,037
	一九三九年	41	48	89	24,376	12,146	36,522	24,376	12,146	36,522
キ ナ	一九三〇年	112	13	125	16,141	2,949	19,090	13,533	2,035	15,568
	一九三七年	99	9	108	15,392	1,831	17,223	14,838	1,305	15,143
	一九三八年	96	11	107	15,179	1,832	17,011	13,536	1,449	14,985
	一九三九年	99	11	110	14,971	2,078	17,049	13,366	1,451	14,817
コ コ ア	一九三〇年	20	1	21	5,358	4	5,362	3,923	4	3,927
	一九三七年	29	8	37	6,086	113	6,199	5,349	72	5,411
	一九三八年	30	8	38	6,172	293	6,465	5,393	77	5,470
	一九三九年	30	7	37	6,420	260	6,680	5,423	82	5,505

ココ 椰子	一九三〇年	140	558	698	7,718	43,914	51,632	4,782	23,829	28,611
	一九三七年	141	524	665	6,897	42,249	49,146	5,880	32,531	38,411
	一九三八年	142	523	665	7,391	42,470	49,861	6,165	33,076	39,241
	一九三九年	148	532	680	7,735	43,757	51,492	6,365	33,974	40,339
コ カ	一九三〇年	—	—	—	—	—	—	—	—	875
	一九三七年	50	2	52	752	2	754	677	—	677
	一九三八年	50	2	52	731	2	733	661	2	663
	一九三九年	48	2	50	752	2	754	738	2	740
油 椰子	一九三〇年	4	44	48	707	60,528	61,235	144	23,873	30,017
	一九三七年	5	58	63	789	82,484	83,273	753	69,460	70,213
	一九三八年	6	54	60	890	91,417	92,307	711	73,799	74,510
	一九三九年	8	58	66	1,385	103,708	105,093	698	75,317	76,015
肉 荳 蔻	一九三〇年	15	11	26	1,228	970	2,198	828	897	1,725
	一九三七年	15	17	32	1,659	1,085	2,744	1,201	951	2,152
	一九三八年	15	19	34	1,546	1,166	2,712	1,293	1,094	2,387
	一九三九年	14	18	32	1,377	1,186	2,533	1,160	1,072	2,232
カ ボ ック	一九三〇年	116	24	140	1,398	320	1,718	927	231	1,158
	一九三七年	174	39	213	2,454	239	2,693	2,318	95	2,413
	一九三八年	173	38	211	2,654	226	2,880	2,283	95	2,378
	一九三九年	167	39	206	1,780	192	1,972	1,726	69	1,795
胡 椒	一九三〇年	20	8	28	1,398	320	1,718	927	231	1,158
	一九三七年	34	12	46	2,454	239	2,693	2,318	95	2,413
	一九三八年	30	13	43	2,654	226	2,880	2,283	95	2,378
	一九三九年	26	12	38	1,780	192	1,972	1,726	69	1,795
ガ ン ビ ル	一九三〇年	—	15	15	—	1,941	1,941	—	1,674	1,674
	一九三七年	—	12	12	—	1,507	1,507	—	1,482	1,482
	一九三八年	—	10	10	—	1,745	1,745	—	1,637	1,637
	一九三九年	—	8	8	—	1,748	1,748	—	1,739	1,739

セ レ 油	一九三〇年 一九三七年 一九三八年 一九三九年	90 90 101 86	9 4 2 2	99 94 103 88	10,525 6,667 6,941 6,453	354 74 26 26	10,879 6,741 6,967 6,479	8,790 5,713 6,401 5,931	142 66 20 26	8,932 5,779 6,424 5,957
合 計	一九三〇年 一九三七年 一九三八年 一九三九年	× 2,045 2,054 2,927	× 1,474 1,466 1,453	× 3,520 3,520 3,490	× 583,149 584,164 591,795	× 561,749 569,003 593,427	× 1,144,898 1,153,167 1,185,222	× 538,045 536,578 533,117	× 507,881 507,878 503,423	× 1,045,926 1,044,456 1,036,540

* 硬質纖維及びカッサツラについては数字不完全のため掲記されてゐない。

** 同年度の数字は不完備のため掲記されてゐない。

*** 農園数の合計には重複せる数字を含む。

× 不明。

1) Indisch Verlag, 1940, h/z. 286~288 より作成。

農林産物別農園の耕地面積割合

種 別	植付面積 (ヘクタール)	割 合 (%)
砂 糖	94,947	8.01
ヘヴィアゴム	615,627	51.94
ガタパーチャ	1,332	0.11
フ イ カ ス	3,437	0.29
コ ー ビ ー	99,167	8.37
茶	138,388	11.68
煙 草	36,522	3.08
キ ナ	17,049	1.44
コ コ ア	6,680	0.56
コ コ 椰 子	51,492	4.34
コ カ	754	0.06
油 椰 子	105,093	8.87
肉 荳 蔻	2,563	0.21
カ ボ ッ ク	1,972	0.17
胡 椒	1,972	0.17
ガ ン ビ ル	1,748	0.15
セ レ 油	6,479	0.55
合 計	1,185,222	100.00

第二節 農林業の特質

蘭印農林業は農園經營と住民經營とに分れ、兩者が拮抗せることは度々述べたる所であり、これ以上説明を要しないと思ふ。

蘭印農林産物の國際市場依存性に付いても再三觸れたのであるが、農林産物の多くが世界各地に輸出され、國際競争に曝されるのであるから、若し國際カルテルが成立しない場合には、國際市場に於ける競争上の優位は比較生産費の低廉に依存するのである。又假令國際カルテルが成立したとしても、例へばそれが價格、生産額を協定する場合には、品質に關する競争は依然として行はれるのであるから、經營合理化を要請する。而して蘭印は熱、光、雨量、地味等の自然的條件が良好なるに加へ、農林技術が政府の政策及び専門家の研究に依つて相當高度に發達し、生産費の低下又は品質の向上を齎らす一の素因を形成してゐるのであるが、その外蘭印の勞力及び土地代が相對的意味に於て低廉なることも農林業の生産費の低下に役立ち、その生成發展に寄與することが大であらう。この點に關する一の好例は砂糖とコブラに於ける蘭印と比島の生産費比較に表はれてゐると思ふ。

上述したる點以外にも、主として自然的條件に基く蘭印農林業の優位があり、生産費の低廉を齎らすのである。蘭印に於ても一年生農林産物の植付及び收穫期は大體一定してゐるのであるが、例へば米に於けるが如く、同じ地域でも植付收穫期を異にしても差支ないものがある。かゝる植付及び收穫期の多様性は當該農業部門全體と各個別經濟に對して二様の影響を與ふる。その一は所謂季節労働者 *Saison-arbeiter* が比較的少いことであり、従つて季節労働に伴なふ賃銀騰貴を避け得る點である。その二は農産物の加工業の操業度に比較的恒久性を有た

しめ、従つて又その經營規模を比較的最適度に決定し得る利益もある。又これと共に、右加工業に於ては原料たる農産物のストックが然らざる場合よりも少くなるのである。

更に又、一般に蘭印の農林産物は生長が早く、植付より收穫の期間が短いのであるが、農林産物中には一箇年數回の收穫があり、或は數毛作し得るものがある。例へば甘蔗は臺灣に於ては植付より收穫迄に一年半近くを要するに反し、蘭印では一年で成熟する。又油椰子は數回の收穫があり、米も二毛作し得るのである。而して成熟期間が短く、數回に亘つて收穫し得るものは、又操業度の恒久性と經營規模の最適度に關して有利となる。尙またゴムの如きは殆んど常時的にタップし得るのであるから、ゴム工場は最適度の經營規模の下に絶えず同一の操業度を維持することが出来る理であるのだ。

上來、蘭印農林業の優位に關し若干の考察を加へたのであるが、要之、前述の優位は第一には自然的條件に基づくのであり、次ぎには社會上——土地の廉價は土地制度に基くといふ意味に於て社會的の性質をも帶びると思ふ——及び經濟上の事由に因るのである。而して經濟上の事由の中には例へば低賃銀の如き自然的自律性を帶びるものもあるが、又例へば農林技術の改良獎勵の如き政府の政策に屬するものも少くない。更に又、右の如き國民經濟的事由の外に經營經濟的事由もある。自然的條件に即應して操業度又は經營規模を最も有利に又は最も適度に決定するのはこれである。以下蘭印農林業の經營經濟的面より深く考察しよう。

先づ蘭印農林業の經營規模に論及したいのであるが、住民經營は資料が十分整はないから、姑く考察の範圍外に置き、専ら農園經營を對象として論究したい。

農林業の經營規模を測定する標準としては耕地面積が適當するものであり、又耕地面積には植付面積と生産面積との別が存するのであるが、植付面積を採ることゝしよう。而して植付面積は農林産物の種類に依つて異なるのであるから、農林業の經營規模を測定する場合にも、農林産物の種類別に考察することが適當であらう。

左表は蘭印主要農林産物に付き一農園當りの耕地面積を示すのであり、これに依れば、農林産物の種類とジャバ、マドゥラと外領の區別に依つて經營規模の異なるを知るのである。今その概數を掲ぐれば、砂糖（全部ジャバ、マドゥラ）は九〇〇ヘクタール、ゴムはジャバ、マドゥラ四〇〇ヘクタール、外領六〇〇ヘクタール、コーヒーはジャバ、マドゥラ三〇〇ヘクタール、外領一七〇ヘクタール、茶はジャバ、マドゥラ三五〇ヘクタール、外領九〇〇ヘクタール、煙草はジャバ、マドゥラ七〇〇ヘクタール、外領二七〇ヘクタール、キナはジャバ、マドゥラ一五〇ヘクタール、外領二〇〇ヘクタール、油椰子はジャバ、マドゥラ一五〇ヘクタール、外領一、五〇〇ヘクタール等である。尙参考の爲め全農園を通じて一農園當りの耕地面積表を添付した。

農林産物別農園一箇當りの面積

(単位 ヘクタール)

種 別	年 次	植 付 面 積		生 産 面 積	
		ジャバ及びマドゥラ	外 領	ジャバ及びマドゥラ	外 領
砂 糖	一九三〇年	1,015.4	—	1,015.4	—
	一九三七年	862.2	—	862.2	—
	一九三八年	874.5	—	874.5	—
	一九三九年	930.9	—	930.9	—

ヘ ヴ ィ ア ゴ ム	一九三〇年	410.3	621.1	515.3	279.1	385.4	332.1
	一九三七年	376.3	617.9	496.0	323.8	571.7	446.6
	一九三八年	375.9	618.7	495.6	318.0	566.3	440.4
	一九三九年	385.2	646.7	513.5	310.0	563.9	434.5
ガ タ パ ー チ ャ	一九三〇年	1,135.0	82.5	433.3	1,135.0	—	378.3
	一九三七年	1,139.0	83.0	435.0	1,139.0	80.5	433.3
	一九三八年	1,139.0	83.0	435.0	1,139.0	83.0	435.0
	一九三九年	1,161.0	85.5	444.0	1,161.0	85.5	444.0
フ ィ カ ス	一九三〇年	×	×	×	×	×	×
	一九三七年	54.0	71.4	58.5	54.0	71.4	58.5
	一九三八年	50.5	61.5	53.2	50.5	61.5	53.2
	一九三九年	48.8	56.7	50.5	48.8	56.7	50.5
コ ー ヒ ー	一九三〇年	322.6	255.6	302.4	269.0	150.4	233.2
	一九三七年	277.8	183.6	257.0	258.5	160.2	236.8
	一九三八年	282.1	172.8	258.4	264.2	151.3	239.7
	一九三九年	291.0	164.1	263.0	270.7	143.0	242.6
茶	一九三〇年	352.1	660.6	393.2	306.3	425.0	322.1
	一九三七年	353.0	900.1	415.0	346.3	886.5	407.6
	一九三八年	353.7	831.6	410.4	349.6	828.5	406.4
	一九三九年	351.7	874.4	410.6	347.5	869.2	406.3
煙 草	一九三〇年	722.0	280.7	450.4	722.0	280.7	450.4
	一九三七年	815.8	276.9	510.6	815.8	276.9	510.6
	一九三八年	720.2	281.4	483.2	720.2	281.4	483.2
	一九三九年	594.5	253.0	410.4	594.5	253.0	410.4
キ ナ	一九三〇年	144.1	226.8	152.7	120.8	156.5	124.5
	一九三七年	155.5	203.4	159.5	139.8	145.0	140.2
	一九三八年	158.1	166.5	159.0	141.0	131.7	140.0
	一九三九年	151.2	188.9	155.0	135.0	131.9	134.7

コ コ ノ	一九三〇年	267.9	4.0	255.3	196.2	4.0	187.0
	一九三七年	209.9	14.1	167.5	184.1	9.0	146.2
	一九三八年	205.7	36.6	170.1	179.8	9.6	143.9
	一九三九年	214.0	37.1	180.5	180.8	11.7	148.8
コ コ 椰子	一九三〇年	55.1	78.7	74.0	34.2	42.7	41.0
	一九三七年	48.9	80.6	73.9	41.7	62.1	57.8
	一九三八年	52.0	81.2	75.0	43.4	63.2	59.0
	一九三九年	52.3	82.3	75.7	43.0	63.9	59.3
コ カ	一九三〇年	×	×	×	×	×	×
	一九三七年	15.0	1.0	14.5	13.5	—	13.0
	一九三八年	14.6	1.0	14.1	13.2	1.0	12.8
	一九三九年	15.7	1.0	15.1	15.4	1.0	14.8
油 椰子	一九三〇年	176.8	1,375.6	1,275.7	36.0	678.9	625.4
	一九三七年	157.8	1,422.1	1,321.8	150.6	1,197.6	1,114.5
	一九三八年	148.3	1,692.9	1,538.5	118.5	1,366.6	1,241.8
	一九三九年	173.1	1,788.1	1,592.3	87.3	1,298.6	1,151.7
肉 荳蔻	一九三〇年	81.9	88.2	84.5	55.2	81.5	66.3
	一九三七年	110.6	63.8	85.8	80.1	56.0	67.3
	一九三八年	103.1	61.4	79.8	66.2	57.6	70.2
	一九三九年	98.4	65.5	80.1	82.9	59.6	69.8
カ ボ ック	一九三〇年	12.1	13.3	12.3	8.0	9.6	8.3
	一九三七年	14.1	6.1	12.6	13.3	2.4	11.3
	一九三八年	15.3	5.9	13.6	13.2	2.5	11.3
	一九三九年	10.7	4.9	9.6	10.3	1.8	8.7
胡 椒	一九三〇年	69.9	40.0	61.4	46.4	28.9	41.4
	一九三七年	72.2	19.9	58.5	68.2	7.9	52.5
	一九三八年	88.5	17.4	67.0	76.1	7.3	55.3
	一九三九年	68.5	16.0	51.9	66.4	5.8	47.2

ガ ン ビ ル	一九三〇年	—	129.4	129.4	—	111.6	111.6
	一九三七年	—	125.6	125.6	—	123.5	123.5
	一九三八年	—	174.5	174.5	—	163.7	163.7
	一九三九年	—	218.5	218.5	—	217.4	217.4
セ レ 油	一九三〇年	116.9	39.3	109.9	97.7	15.8	90.2
	一九三七年	74.1	18.5	71.7	63.5	16.5	61.5
	一九三八年	68.7	13.0	67.6	63.4	10.0	62.4
	一九三九年	75.0	13.0	73.6	69.0	13.0	67.7
合 計	一九三〇年	×	×	×	×	×	×
	一九三七年	285.0	381.1	325.3	263.0	344.6	297.1
	一九三八年	284.4	388.1	327.6	261.2	346.4	267.7
	一九三九年	292.0	405.6	339.6	263.0	344.1	297.0

×不明。

1) 別表「農林産物別農園の数並びに面積」より算出。

一 農 園 當 り の 面 積¹⁾

(単位 ヘクタール)

地 方 別	年 次	官營農園		私 有 地		永代借地		王領租借地		農業租借地		住民よりの 短期租借地		合 計	
		總面積	植付面積	總面積	植付面積	總面積	植付面積	總面積	植付面積	總面積	植付面積	總面積	植付面積	總面積	植付面積
ジャ バド 及 ウ ビラ	一九三〇年	1,038.6	999.9	4,894.7	615.4	670.9	443.8	770.3	670.8	—	—	1,040.0	1,001.4	988.9	567.5
	一九三七年	1,466.1	1,320.9	5,176.8	730.2	626.8	433.6	794.9	596.1	—	—	710.1	688.7	895.8	499.3
	一九三八年	1,466.5	1,321.3	5,389.1	720.8	627.9	437.4	816.1	618.3	—	—	685.1	675.7	909.2	503.7
	一九三九年	1,470.1	1,328.6	4,994.6	711.0	626.0	439.7	802.5	641.6	—	—	774.3	763.0	907.9	514.4
外 領	一九三〇年	5,840.5	1,506.5	191.5	60.3	743.6	183.7	—	—	2,122.6	747.2	—	—	1,338.8	424.8
	一九三七年	5,339.5	3,639.0	148.2	91.8	578.7	194.4	—	—	2,170.2	924.7	417	417	1,161.1	464.4
	一九三八年	5,339.5	3,657.0	148.2	82.8	589.5	201.6	—	—	2,144.3	934.2	377	368	1,157.1	471.6
	一九三九年	5,343.5	3,808.0	162.8	87.2	594.7	206.9	—	—	2,169.7	978.7	109	97	1,166.2	489.6

東京府農林課の提供

第1巻 五七九 農林部 1111

蘭印金山	一九三〇年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九三〇年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九三〇年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九三〇年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九三〇年	一九三七年	一九三八年	一九三九年
	1,953,211,096,444,643.9	1,950,311,610,711,015.5	1,950,611,613,35,003.7	1,954,11,638,64,651.3	585.8	682.6	673.9	667.1	704.2	604.6	610.1	611.5	324.6	323.1	328.1	271.8	770.3	794.9	816.1	802.5
	670,82,122.6	596,12,170.2	618,32,144.3	641,62,169.7	747,21,040.0	724.7	698.9	769.3	1,001.4	1,001.4	1,030.4	1,034.6	495.9	481.6	487.5	501.8				

1) 別表「農園の數並びに面積」より算出。

如此く農林産物の種類と地域とに依つて植付面積即ち經營規模を異にするは、恐らくは種類と地域に依つて最適經營規模が異なるが爲めであり、各農園は可及的に最適經營規模の下に操業せんとするのであらう。而して農園の最適經營規模は附屬工場の規模にも依存するのではあるが、管理費の最低、詳言すれば、農園の單位面積當りに要する支配人等、職員の費用を最少ならしむることに依つて決定せられることも多いのではあるまいか。

經營經濟の面より見たる蘭印農林業の他の特質は多角經營である。此處に所謂多角經營とは蘭印の地域内に於て同一の企業が各種の農林産物をそれぞれ別個の經營體又は經濟單位として栽培加工することを意味する。元來多角經營は地域を異にして、例へば蘭印と和蘭、マレー半島等に於て同一企業が多くの經營體を構成することがあり、又色々の産業部門間に於て、例へば農林業と工業、鑛業を經營することもあるが、此處で所謂多角經營とはかゝる廣義の多角經營を除外し、蘭印内のみに於て専ら農林業に付いて行はれる多角經營に限局したい。又如此く限局するに依つて蘭印農林業の特質が鮮明となる。

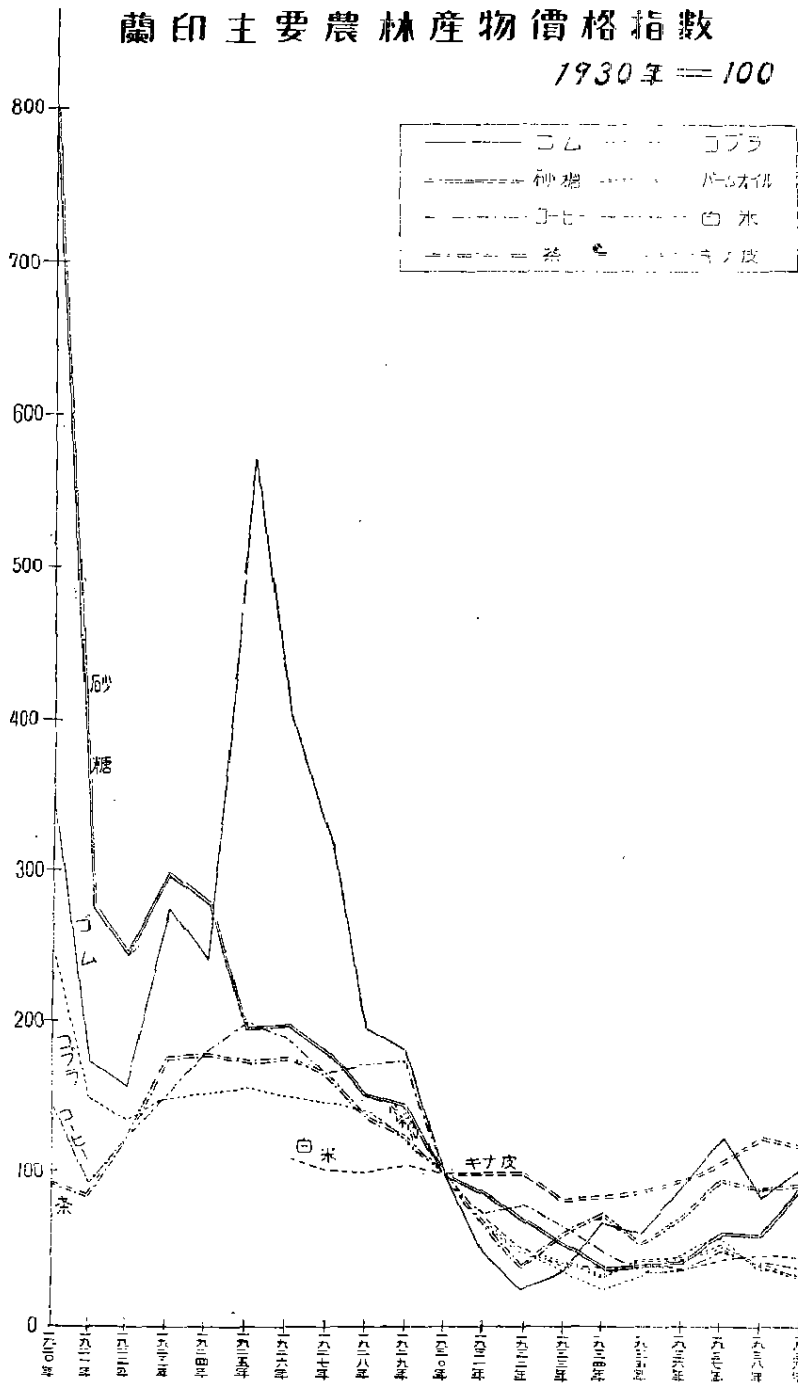
農林業産物が多種多様である場合には、特に計量的でなくとも、農林業のみに付いて多角經營が生成發展する

は自然であるが、蘭印には農林業のみの多角經營が經營性の發揮の爲めに計畫的に行はれてゐるのである。換言すれば、農林業の經營合理化の一方策として多角經營が生成發展した。

抑々、農林產物は氣候の良否、雨量の多寡、暴風雨及び蟲害の有無等自然的條件に因りて毎年豐凶の別があり、それ自體に於て價格の變動を齎らす要因を有するのであるが、かかる場合の價格の變動は農林產物の各種類又は生産地域別に依つて異なることが多いであらう。更に又蘭印農林產物の如く世界各地に輸出し、國際市場への依存性が強い場合には、世界景氣の變動に依つて影響されることが多い。元來、世界景氣の變動は農林產物の豐凶に基く場合も少くないのではあるが、農林產物の豐凶と離れて發生することも多い。而して景氣が全産業部門に迫つて變動する場合には、各種の農林產物は一樣にその影響を受けるのではあるが、この場合に於ても、各種農林產物の受くる影響の程度に差異あることは少くない。又景氣の變動が特定の産業部門のみに表はれることもあり、それが各種の農林產物に及ぼす影響は種々であらう。特に農林產物中には食料品、纖維原料等生活必需品又はその原料たるものと、奢侈品又は生産財の原料たるものと別があり、従つて各種農林產物に付いて價格の變動は必ずしも一樣でないと思ふ。要之、農林產物はそれ自體に於て價格變動の要因を包藏し、農林產物の各種類又は生産地域別に依つて價格變動の時期及び幅を異にする外、それが國際市場に依存する場合には、世界景氣の變動に因つて價格が變動し、而してその變動の態様は農林產物の種類に依つて異なることが多い。これ等價格の變動は蘭印の農林產物に付いても適用を見るのであつて、左の圖表は蘭印農林產物の價格の變動が如何に大であり、又その價格の變動が農林產物の種類に依つて如何に異なるかを覺知せしむるであらう。尙この價格の變動

蘭印主要農林産物價格指數

1930年=100



東印度農林業の性格

に付いては更に直ぐ後で吟味したい。

農林産物の價格の變動は農林業に於ける利潤に影響を與ふることとなるのであるが、今各種の農林産物中に付いて多角經營をなすときは、或る程度景氣の影響を平均化することを得、農林業の危険分散、利潤の安定化に役立つことが出来るのである。尤もこの場合如何なる種類の農林産物を選択して組合せをなすべきやは十分の研究が必要であり、又かく選擇されたる農林産物の經營規模を如何に定むるやも検討すべきことは勿論であるが、何れにするも、選擇されたる各種の農林産物を適度の規模の下に經營するときは、その綜合體である企業は多角經營體となり、危険分散を期し得るのである。

蘭印の農林産物の多くに付いて國際協定が成立してゐるのであり、これに依つて輸出及び生産額が統制され、その結果價格も比較的安定するやう機構附けられてはゐるのであるが、この國際協定のみによつて價格の維持、利潤の安定を確保し得ない。何故ならば、農林産物の豐凶は自然的條件の制約を受くことが大であり、景氣の變動も國際協定の支配力の埒外に出づることが多いのみならず、國際協定は屢その構成自體に於て統制力を薄弱ならしむる素因を有つからである。

今蘭印主要農林産物の價格の變動を吟味し、又それを國際協定——從つて又これに基く蘭印政府の統制策——との關聯に於て考察せんが爲め、前掲したる圖表「蘭印主要農林産物の價格指數」を再び考察の對象としよう。右の圖表に依れば、一九二〇年より一九三九年の間に於て、各種の農林産物の價格は大體に於て同一の變動傾向をとつたのであり、一九三一年より一九三四年迄の世界的不況を底とし、その以前は相當高く、その以後は漸次

回復の跡を辿つてゐる。然しながら、農林産物の種類に依つては價格變動の時期は必ずしも一致してゐない。例へば一九二五年ゴムとコーヒーは最高價格を示してゐるが、砂糖と茶は前年より下落し、特に砂糖は下落が甚しい。又一九三二年にはコーヒーとキナ皮の價格は前年に比し上騰又は同一なるに反し、ゴム、砂糖、茶、パーム油、コプラ、白米は暴落してゐる。更に又各種農林産物の最低最高價格を一九二〇年を共通標準とする指數に依つて表せば、ゴムは二八より五七〇、砂糖は三八より七九四、コーヒーは三四より一九九、茶は三八より一八〇、コプラは二七より二四九、パーム油（一九二九年以降）は三〇より一三七、白米（自一九二二年至一九二五年を除く）は三七より一二、キナ皮（一九三〇年以降）は八〇より一二六迄變動してゐるのである。

然らば國際協定の成立と農林産物の價格の變動は如何なる關係にあるや。曩にゴム、砂糖、茶及びキナに付いて國際協定の成立を述べたのであるが、コーヒーに關しては世界最大の生産國たるブラジルは夙に自國產のコーヒーに付き供給制限に依る價格鈞上策 *Valorization* をとりたる外、一九三六年には中南米九箇國がコーヒーの輸出制限を目的とする國際協定を締結したるが爲めに、蘭印產のコーヒーも或る程度價格の維持に均霑し得たのである。仍つて以下これ等の國際協定を中心として當該農林産物の價格變動に考察を加へよう。

ゴムに付いては一九二二年ステイブソン協定が成立したのであるが、これは蘭印その他の地域が参加せず、效力は薄弱であつた。従つてこの協定は姑く度外視し、一九三四年結成せられたる國際協定を對象としたい。一九三四年以降ゴムの價格は大體上昇過程を辿り、又それ以前に比し著しく安定してゐるのであるが、それでも尙相當の高低があつた。又砂糖に付いては一九三一年チャドボーン協定が成立し、價格は比較的安定してゐたとは

謂へ、漸落歩調をとつたのである。これはチャドボーン協定が専ら砂糖輸出に依つて結成せられ、自給自足策の下に増産を續ける地域が加盟しなかつた爲めに、統制力が弱かつたことにも基くのであらう。而して一九三七年更に強力なる國際協定が結成せられて以來は、砂糖の價格は少しく上昇傾向を示したのである。何れにするも、砂糖の國際協定が成立して以來、その價格が從來に比しより安定せることは明白であると思ふ。更に又茶に關しては一九三〇年國際協定が成立したのであるが、價格は却つて可成りの幅を以つて下落した。これは恐らく右の協定が單に製茶業者の私的協定たるが爲めに統制力が薄弱であつたのに基くのであり、従つて一九三三年政府が當事者となつて國際協定を締結するや、茶の價格は大體上昇傾向を辿つたのであるが、この間に於ても年に依り多少の變動を示してゐる。その點は兎も角として、茶に關する國際協定の成立を契機として價格がより安定化したことは否認出来ないであらう。次ぎにコーヒーは一九三六年、中南米諸國がカルテルを締結して以來、稍々上騰したるも、元來このカルテルは加盟國所產のコーヒーの品質が多様なるに因つて價格決定につき相當の自由裁量を認めたる關係もあつたが爲めでもあらう、幾程もなくして價格は再び下落したのである。

キナ皮に關しては夙に國際協定が成立してゐたとは謂へ、もともとキナの大部分は蘭印に於て生産されるのであるから、寧ろ國內的統制の性質を帯びると謂ふも差支ないであらう。而してキナ皮に關する統制が最も強化したるは一九三四年蘭印政府の統制令、又特に一九三七年キナ制限令制定以來のことであり、それ以後はキナ皮の價格は少しづゝではあるが上昇してゐる。

上來叙述したる事實より二の結論を導き得ると思ふ。その一は——蘭印主要農林產物の價格は可成りの變動が

あつたのであるが、國際協定又はこれに關聯する國內統制が行はれて以來は、大體漸騰過程をとりつゝ、比較的安定化せることである。尤もこの點に關し右の國際協定又は國內統制が價格維持の唯一の原因なるやに付いては疑問がある。と謂ふ意味は、價格の維持が世界恐慌が一應經過したる後に起つてゐるから、恐慌後世界市況が漸次的に回復したる以上、國際協定又は國內統制の有無に拘はらず、價格は漸騰過程をとる可能性が多いと解せられるのであり、従つて價格の維持を必ずしも國際協定又は國內統制に歸し難いと謂ふことである。この點はコブラ、パーム油及び白米が國際協定もなく又國內統制も全般的には左程強くないに拘はらず、他の農林產物とほぼ同一の價格步調をとつたことに依つて或る程度裏附けられるのではあるまいか。その點は兎も角として、國際協定又は國內統制が蘭印農林產物の價格の維持に多少の寄與ありたることは否認出來ないであらう。

結論の二は——國際協定又は國內統制の行はれてからも、當該農林產物の價格は多少の變動があり、従つて又これに關聯して價格變動の時期及び幅が同一でないことである。

吾々は蘭印農林業の特質の一たる多角經營を吟味してゐるのであり、これに關聯して農林產物の價格に付き若干の考察を加へた。而してこれより生ずる結論は、國際協定又は國內統制下に於ても、各種の農林產物は多少の程度に於て價格が變動し、又變動の時期及び幅が異なるのであるから、農林產業各部門の利潤も異なるのであり、従つて各種の農林產物の生産を適當に組合はせて經營せば、危険分散、利潤の平均化を達成することが出來る。要するに多角經營の必要性が存するのである。

かくして蘭印の農林企業の多くは多角經營を行つてゐる。ハーヴニフ Handelsvereniging "Amsterdam"、

リー會社 *Dei Mij*. 等はその好例である。特にハーヴェアはジャバ、スマトラ等の各地に亘り各種の農林業を經營してゐるのであるが、スマトラ東海岸、アチュー、タバヌリ地方だけでもゴム、茶、パーム油、纖維作物等の農園を經營し、ジャバに於ては砂糖、米等を産する。又我が野村農園はボルネオのバンジエルマシンにゴム、スマトラにパーム油、コーヒーを植栽してゐるのであるが、南國産業株式會社もゴム、茶、コーヒー、ココア、キナの農園を經營する。尙政府の農園は殆んど凡ゆる農林業を經營してゐることを斷つておく。

多角經營を行ふ場合、各種の農林産物は最適度又はこれに近き經營規模の下に生産せられるのであるが、これ等の農園は地域を異にする場合と同一地域にて立地せられる場合の別がある。而して後者の場合には多角經營の構成單位たる各農園の經營規模が最適度又はこれに近いのであるから、その綜合たる農林業立地は相當大なる面積を有つこととなる。換言すれば、多角經營に依る綜合的經營體の規模が大であるから、大規模經營の特質たる生産技術及び組織の高度化は一層發揮せられ、生産性の昂揚を齎らすのである。例へばプロポリンゴの東南約五十キロに所在するハーヴェアの農園は砂糖、米等の多角經營をなすのであるが、延長三十キロ餘に亘る灌漑水路は巧緻精細を極め、農園の生産能率も甚だ高い。

以上の如くして、多角經營が同一地域に集中するときは、多角經營と大規模經營の双方の利益を同時に收むることが出来るのである。この點は蘭印農林業の特質中でもとりわけ銘記に價すると思ふ。

最近又特に國際情勢の變化と共に蘭印に於てもアウタルキー政策が行はれつゝあつたのであるが、農林業に於てもアウタルキー政策は米の自給自足策に一の表はれを示してゐる。若しこのアウタルキー政策が強化せられる

場合には、蘭印農林業の特質たる國際市場への依存性が相當の影響を受けることを思考し得るのではあるが、この場合、從來の農林産物の一部を例へば米に依つて置き換ふるか、若しくは新しき土地を開拓するかこの二つの方法を考慮し得るのである。而して農林産物の種類に應じて農園經營と住民經營とが大體に於て區分される以上、この點が農林産物の種類の轉換に對し一の桎梏となるのではあるまいか。果して然りとせば、農林業に關するアウタルキーは住民經營に於ける農林産物の種類の轉換か若しくは主として住民に依る耕地の開拓に依つて達成せられねばならないのであるが、その點は兎も角として、農園の産物は依然として國際市場に依存することとなるであらう。然らば農園の國際市場依存性は止場することなきや、この命題を解決する鍵は蘭印の工業化に存するのである。

蘭 印 主 要 農 林 産 物 生 産 高 表^{*)}

(単位 磅)

	一九三〇年			一九三一年			一九三二年			一九三三年			一九三四年			一九三五年			一九三六年			一九三七年			一九三八年			一九三九年		
	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計	農園産量	住民産量	合 計
胡椒	2,915,865	83,044	2,978,909	2,772,443	53,915	2,826,358	2,560,182	50,507	2,610,689	1,372,585	44,301	1,416,886	636,104	42,285	678,389	509,859	55,014	564,873	574,710	57,560	632,270	1,379,934	72,849	1,452,783	1,375,510	91,193	1,466,703	1,562,462	87,975	1,650,437
ヘブライボム	153,530	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530	—	—	153,530
ガムバチヤ	110	—	110	—	—	110	—	—	110	—	—	110	—	—	110	—	—	110	—	—	110	—	—	110	—	—	110	—	—	110
コーヒ ⁽¹⁾	40,313	54,236	94,549	48,745	54,499	103,244	62,715	69,558	132,273	55,702	49,742	105,444	64,277	48,759	113,036	55,307	55,640	110,947	50,383	74,530	124,913	62,404	69,627	132,031	45,579	61,729	107,308	53,319	55,000	113,219
茶 ⁽²⁾	57,628	14,363	71,991	66,406	14,303	80,709	69,513	12,424	81,937	63,494	11,798	75,292	59,534	11,759	71,293	58,733	12,622	71,355	62,952	12,629	75,581	62,346	12,170	74,516	68,332	12,206	80,538	70,511	12,548	83,159
烟草 ⁽³⁾	60,575	67,400	127,975	63,976	77,300	141,276	45,114	63,709	108,824	38,557	58,400	96,957	44,219	75,401	119,619	42,319	66,300	108,619	45,562	59,100	104,662	47,473	67,600	115,073	40,704	66,100	106,804	39,003	62,700	101,703
ナ ⁽⁴⁾	11,573	6	11,579	10,625	12	10,637	10,120	28	10,148	7,534	27	7,561	8,161	22	8,183	8,607	57	8,664	9,875	129	10,004	10,425	138	10,563	10,955	233	11,188	12,391	228	12,619
ココア	1,202	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202	—	—	1,202
ココナ	25,775	527,600	553,375	23,039	456,100	521,139	26,505	629,000	655,505	27,551	658,200	685,751	27,046	609,200	636,246	29,741	665,800	695,541	27,462	698,400	725,862	31,101	723,500	754,601	47,247	614,900	662,147	37,674	798,800	836,474
カ	363	—	363	—	—	363	—	—	363	—	—	363	—	—	363	—	—	363	—	—	363	—	—	363	—	—	363	—	—	363
椰子	9,821	—	9,821	12,805	—	12,805	18,413	—	18,413	22,805	—	22,805	24,878	—	24,878	30,615	—	30,615	36,136	—	36,136	41,826	—	41,826	48,036	—	48,036	53,766	—	53,766
油	49,752	—	49,752	64,457	—	64,457	90,072	—	90,072	112,154	—	112,154	130,647	—	130,647	147,334	—	147,334	175,236	—	175,236	199,092	—	199,092	226,568	—	226,568	241,563	—	241,563
繊維	1,779	—	1,779	1,885	—	1,885	1,819	—	1,819	1,855	—	1,855	2,351	—	2,351	2,396	—	2,396	2,678	—	2,678	3,077	—	3,077	3,385	—	3,385	3,745	—	3,745
カボック	3,278	—	3,278	3,517	—	3,517	3,260	—	3,260	3,477	—	3,477	4,385	—	4,385	4,450	—	4,450	5,061	—	5,061	5,815	—	5,815	6,581	—	6,581	7,351	—	7,351
豆	495	—	495	562	—	562	454	—	454	465	—	465	366	—	366	414	—	414	366	—	366	335	—	335	476	—	476	389	—	389
花	90	—	90	88	—	88	72	—	72	57	—	57	59	—	59	78	—	78	69	—	69	56	—	56	83	—	83	70	—	70
胡椒	247	35,224	35,471	130	31,549	31,679	119	36,141	36,260	148	44,156	44,304	98	46,520	46,618	178	60,561	60,739	159	77,495	77,654	155	32,529	32,684	230	54,610	54,840	93	69,931	70,024
サンベ ⁽⁵⁾	4,481	5,082	9,563	3,225	10,979	14,204	3,272	9,451	12,723	3,368	9,444	12,812	3,296	10,075	13,371	2,991	9,989	12,980	3,379	10,126	13,505	3,335	7,931	11,266	3,289	7,636	10,925	3,262	9,784	13,046
油	472	70	542	418	85	503	414	104	518	506	125	631	606	255	861	508	202	710	399	170	569	492	273	765	539	494	1,133	730	448	1,178
麻	16,406	—	16,406	19,457	—	19,457	19,996	—	19,996	—	—	21,294	—	—	25,934	—	—	25,934	—	—	29,535	—	—	34,112	—	—	40,769	—	—	43,200
水	—	6,725,600	6,725,600	—	6,482,600	6,482,600	—	6,884,400	6,884,400	—	7,007,400	7,007,400	—	7,155,500	7,155,500	—	7,784,400	7,784,400	—	8,014,100	8,014,100	—	8,017,800	8,017,800	—	8,405,200	8,405,200	—	8,492,000	8,492,000
麻	—	579,900	579,900	—	512,000	512,000	—	543,300	543,300	—	525,300	525,300	—	489,300	489,300	—	477,900	477,900	—	530,900	530,900	—	468,700	468,700	—	510,400	510,400	—	472,800	472,800
カッサ ⁽⁶⁾	—	5,229,000	5,229,000	—	5,925,600	5,925,600	—	6,222,000	6,222,000	—	5,831,300	5,831,300	—	5,895,100	5,895,100	—	6,428,800	6,428,800	—	7,567,400	7,567,400	—	7,731,000	7,731,000	—	8,254,600	8,254,600	—	8,443,200	8,443,200
甘	—	1,102,100	1,102,100	—	966,000	966,000	—	957,800	957,800	—	1,142,000	1,142,000	—	1,252,100	1,252,100	—	1,558,000	1,558,000	—	1,593,300	1,593,300	—	1,446,200	1,446,200	—	1,444,500	1,444,500	—	1,535,600	1,535,600
玉 ⁽⁷⁾	—	2,021,900	2,021,900	—	1,930,800	1,930,800	—	1,902,300	1,902,300	—	2,126,800	2,126,800	—	1,775,100	1,775,100	—	2,038,900	2,038,900	—	2,259,600	2,259,600	—	2,129,600	2,129,600	—	2,016,100	2,016,100	—	2,070,200	2,070,200
花	—	195,000	195,000	—	142,100	142,100	—	161,500	161,500	—	160,800	160,800	—	156,300	156,300	—	155,100	155,100	—	179,400	179,400	—	155,400	155,400	—	214,900	214,900	—	188,900	188,900
六	—	127,800	127,800	—	128,500	128,500	—	149,000	149,000	—	181,500	181,500	—	177,600	177,600	—	205,900	205,900	—	252,200	252,200	—	274,600	274,600	—	296,600	296,600	—	332,500	332,500

- (註) (1) 住民産の数字は外領に於ける住民産コーヒの輸出可能高に基いて推定されたものである。
 (2) 住民産の数字は農園に依つて買入れられたる住民産の数量である。これは農園の産額に小農園よりの買入分を含む。
 (3) 農園の産額は住民産より買入分を含む。住民産として掲げたる数字はジャバに於ける住民産の推定生産高である。
 (4) 住民産の数字は總生産高として掲げられたる数字より農園の産額を控除して得たるものである。
 (5) 歐米農園の産額は住民より買入分を含む。
 (6) この数字は不完全である。これは他に、生産面積の不明なるパンプの肉豆蔻園より産出される青豆蔻に花の数量は次の如くである。實——940(1930年), 908(1931年), 624(1932年), 716(1933年), 452(1934年), 569(1935年), 492(1936年), 521(1937年), 421(1938年), 360(1939年), 花——140(1930年), 135(1931年), 48(1932年), 134(1933年), 79(1934年),

- 83(1935年), 78(1936年), 87(1937年), 71(1938年), 57(1939年)。
 (7) 合計の数字は外領に於ける輸出可能高に基くもので、住民産の数字はこれより農園の産額を控除せる推定数字である。
 (8) 住民産の数字は住民産の生産高である。農園の産額は買入分を含む。
 (9) ジャバ及びマドダのみ。但し一九三四年以降はバリ及びロンボクを含む。
 * 不明。
 *) Indisch Verslag, 1930~1940 及び De Landbouweyexportgewassen van Nederlandsch-Indië in 1930, 1931, 1932, 1933, 1934, 1935, 1936, 1937, 1938, 1939 より作成。

農 園 の 数 並 び に 耕 地 面 積^{*D}

(単位 ヘクタール)

地 方 別	年 次	官 營 農 園			私 有 地**			永 代 借 地			王 領 租 借 地			農 業 租 借 地			住民よりの短期租借地			合 計		
		農 園 数	總 面 積	植付面積	農 園 数	總 面 積	植付面積	農 園 数	總 面 積	植付面積	農 園 数	總 面 積	植付面積	農 園 数	總 面 積	植付面積	農 園 数	總 面 積	植付面積	農 園 数	總 面 積	植付面積
ジャ バ 及 ビラ	一九三〇年	17	17,656	16,998	71(2)	347,523	43,694	844(2)	566,267	374,593	91	70,094	61,039	—	—	—	197(129)	204,873	197,280	1,200	1,206,413	693,604
	一九三七年	14	20,525	18,493	62(1)	320,961	45,274	891	558,474	386,319	76	60,410	45,306	—	—	—	134(136)	93,930	92,287	1,177	1,054,300	587,679
	一九三八年	14	20,531	18,498	63(2)	339,512	45,411	889	558,193	388,818	73	59,572	45,135	—	—	—	148(139)	101,394	100,003	1,187	1,079,202	597,865
	一九三九年	14	20,582	18,601	66(2)	329,642	46,929	894(1)	559,657	393,111	75	60,188	48,117	—	—	—	132(142)	102,213	100,710	1,181	1,072,282	607,468
外 領	一九三〇年	4	23,382	6,026	4	766	241	714(9)	530,951	131,165	—	—	—	525(1)	1,114,361	392,293	—	—	—	1,247	1,669,440	529,725
	一九三七年	2	10,679	7,278	5	741	459	765(22)	442,682	148,728	—	—	—	439(1)	952,719	405,942	1(7)	417	417	1,212	1,407,238	562,824
	一九三八年	2	10,679	7,314	5	741	414	768(22)	452,774	154,805	—	—	—	439(1)	941,331	410,125	1(7)	877	368	1,215	1,405,902	573,026
	一九三九年	2	10,687	7,616	5	814	436	773(21)	459,725	159,959	—	—	—	438(2)	950,311	428,659	1(6)	109	97	1,219	1,421,646	596,767
蘭 印 全 土	一九三〇年	21	41,018	23,024	75	343,289	43,935	1,558	1,097,218	505,758	91	70,094	61,039	525	1,114,361	392,293	197	204,873	197,280	2,467	2,875,853	1,223,329
	一九三七年	16	31,204	25,771	67	321,702	45,733	1,656	1,001,156	535,047	76	60,410	45,306	439	952,719	405,942	135	94,347	92,704	2,389	2,461,538	1,150,503
	一九三八年	16	31,210	25,812	68	340,253	45,825	1,657	1,010,967	543,623	73	59,572	45,135	439	941,331	410,125	149	101,771	100,371	2,402	2,485,104	1,170,891
	一九三九年	16	31,269	26,217	71	320,456	47,365	1,667	1,019,382	553,070	75	60,188	48,117	438	950,311	428,659	133	102,322	100,807	2,400	2,493,928	1,204,235

* 重複を避ける爲め各種類別農園数の中に算入されてゐない農園の数は括弧内に示した。

** 専ら住民農林産物の植付けらるゝ耕地を除く。

1) Indisch Verslag, 1940, blz. 256~263 より作成。